



気張らずに時間をかけて 教師全員で外国語活動に取り組む

山梨県北杜市立高根西小学校

北杜市立高根西小学校では、子どものコミュニケーション能力を高めようと、1年生から外国語活動に取り組む。学級担任が実践を見せ合い、活動について教師同士が意見交換しやすい環境を整えるなど、どの教師も効果的な指導が出来るように工夫している。

蓄積してきた指導案を基に「英語ノート」を部分的に使用

北杜市立高根西小学校は、自然豊かな八ヶ岳南麓に位置している。単学級の小規模校であるため、異学年も含めた子ども同士のコミュニケーションは円滑だが、よく知らない相手に対しては、自分の考えをうまく伝えられない場合が見られるという。そうした子どもたちのコミュニケーション能力を高めるため、同校では「自ら考えよく学び、生き生きと活動する児童の育成―外国語活動の実践を通して―」を研究テーマに、全学年で外国語活動を行う。河西俊

英校長は、そのねらいを次のように説明する。

「グローバル社会を生きる子どもたちには、相手の言葉に耳を傾けるだけでなく、自発的に相手とコミュニケーションを取る力を身に付けて欲しいと思っています。1年生から外国語活動に取り組んでいるのも、コミュニケーション能力を早くから育むためです」

同校は10年以上前からALT主導による外国語活動を行ってきた。2004年度、山梨県教育委員会からの研究指定を受けたのをきっかけに独自の指導案を作り、担任主導の活動を始めた。

現在は、6年間で少しずつ蓄積してきた独自の指導案を基に「英語ノ

ート」を部分的に活用している。

実際の活動を見学し活動へのイメージを具体化させる

年間の外国語活動時間は、1～4年生が10時間、5・6年生が35時間。1～4年生は余時数、5・6年生は「外国語活動」の時間を活動に充てている。

1年生から外国語活動を行っているため、全学年のカリキュラムと指導案を基に教師全員で研究を行う。その意義を、浅川孝夫教頭（当時）は次のように説明する。

「担任が代わって外国語活動のやり方も変わってしまったのは、全児童

の力を伸ばせません。教師全員で取り組むことが重要です」

そのため工夫は、次の3点にまとめられる。

1. 教師同士が実践を見せ合う
年3回、研究会として授業を公開

図1 外国語活動の方針

- 簡単な英語を堂々と!
- 短い単語でもメッセージは伝えられる!
- ジェスチャーや表情を有効に使って!

“This is my English!”

という気持ちで、子どもたちと一緒に活動しよう!

するほか、教師が希望すれば、いつでも他の教師の外国語活動を参観できる。これにより、新しく赴任して来た教師でも、担任主導の外国語活動の授業を具体的にイメージできる。研究主任の内藤茂樹先生は、同校に赴任して外国語活動の取り組み方を変えたという。

「前任校ではA・L・Tに任せきりで、担任が活動を進める方法が分かりませんでした。本校で他の先生方の取り組みを見学し、助言をもらうことで、改善点が見えてきました。具体的な実践を見ると、色々なアイデアも出やすくなります。今では、進行するのは担任、発音はA・L・Tと、活動の中で役割を分担しています」

2. 全教師で知見を共有

全教師のパソコンをLANでつないで共有フォルダを作り、そこに外国語活動の指導案を入れている。指導案には教師が自由にコメントを書き込めるスペースを設け、日々の活動によって気付いた反省点や改善点を共有する。それを他の教師が自分の外国語活動に生かすだけでなく、次年度のための修正案にも反映している。

「みんなによって楽しい外国語活

動とするために、良い実践を蓄積し、他の先生が気軽に取り入れられ、更に改善していく環境づくりを大切にしています」(河西校長)

教材も、教師が個々に管理するのではなく、教材保管のための部屋を用意し、全教師で共用する。教材を作る時間を節約し、活動研究を行うことで、授業がレベルアップした。また、「英語ノート」は、教師全員で活用法を検討し、同校の外国語活動に合うように工夫して取り入れられている。

3. 互いに相談できる雰囲気づくり

研究会の場以外にも、教師同士が日常的に外国語活動について意見を交換し、相談し合えるような雰囲気をつくっている。普段の意見交換は研究主任が中心だが、時には管理職から声を掛ける。管理職が常に、現場の教師の抱える仕事を把握すると共に、指導改善の取り組みが正しい後手に回ってしまいうような時の「ペースメーカー

」的な役割も果たしているという。「忙しい中でも教師が外国語活動への意欲を維持し、実践を重ねられるように、日頃から現場の状況に注意し、声かけをしています」(浅川教頭)

気張らずに 小さな努力を 続けることが大切

同校では、外国語活動に限らず、「継続していく姿勢」を大切にしていくのが教育です。研究指定を

「時間をかけて良いものを身に付けていくのが教育です。研究指定を

受けた期間、あるいは特定の教師がいる期間だけでなく、常に、どの教師も効果的な活動が出来る環境を整えることが大切だと考えています」(河西校長)

こうした取り組みの成果は、外国語活動に対する子どもの反応にも現れている。09年度の児童実態調査では、外国語活動が「好き・どちらか」というと好き」という回答が9割以上を占めた。

「子どもの様子を見ながら、無理のない範囲で少しずつ改善を重ねてきた結果だと思えます。今後も、小さな努力を積み重ねる教育を続けていきます」(河西校長)

School Data

山梨県北杜市立高根西小学校

概要 1873(明治6)年開校。2004年度、山梨県教育委員会の研究指定を機に、児童のコミュニケーション能力を育むため、独自の指導案を作り、担任主導の外国語活動を続けている。

校長 河西俊英先生

児童数 197人

学級数 8学級(うち特別支援学級2)

所在地 〒408-0118 山梨県北杜市高根町村山西割1696

TEL 0551-47-2025

URL <http://www.takane-nishi.city-hokuto.ed.jp/>

研究発表会予定 未定



北杜市立高根西小学校
河西俊英 Kasai Toshihide

校長

「何事にも明るく、前向きに対処し、他の先生を元気づける存在でありたい」



北杜市立高根西小学校
浅川孝夫 Asakawa Takao

教頭

「地域の持つ良さを最大限に生かし、心豊かな人間を育てたい」



北杜市立高根西小学校
内藤茂樹 Naito Shigeki

研究主任

「楽しい授業をする中で子どもと共に成長する教師でありたい」

*プロフィールは取材時(2010年3月)のものです